

困った行動への適切な対応



ほめて育てるコツを学ぶ

行動の意味と注目のパワー

* 行動の意味をとらえる

子どもの行動の意味は主に3つ

1. 要求・・・○○したい、○○が欲しい など
2. 逃避・・・○○がいや、ここに居たくない、○○したくない など
3. 注目・・・こっちに来て、遊んで欲しい、かまって欲しい など

→ワーク1 困った行動の意味を考えよう

困った行動への支援

* 適切なコミュニケーションを教える

「困った行動」を「適切な行動」にするにはその行動の意味に合ったコミュニケーションを教えること

Ex.泣いてばかりいる子には泣かずに済むコミュニケーション方法を教える
それには何故泣いているのか、その行動の意味を見極めることが大切

1. 言葉で伝えられるよう事前に確認

困った行動が起こりそうな場面であらかじめ必要な伝え方を確認しておく

Ex.* 「食べたくない物があったら、食べられませんと言ってね」

* 「おもちゃが欲しい時は、貸してって言ってね」

* 「着替えの時にお手伝いして欲しかったら『先生来て』と言ってね」

2. モデルを示す

事前に伝えても困った行動をしてしまう場合は、伝え方の見本を示す。

- ・ 食べられません、貸して、見てての伝え方をジェスチャーで

3. 言葉以外の方法を工夫する

言葉で伝えるのが難しい場合、カードを使うなど別の方法を工夫。

Ex. 「食べられません」「減らしてください」などのカードを用意

「貸して」「ありがとう」などのカードを保育室に掲示

着替えのコーナーに「お手伝い」カードを準備しておく

注目のパワーを活用する

- ・肯定的な注目（ほめる、励ます、感謝するなど）→良い行動を増やす
- ・否定的な注目（しかる、バツを与えるなど）→困った行動を悪化させる

子どもは褒められると嬉しくなり、さらにその行動を起こそうとする。
逆に叱られると「どうせ、僕なんか」と良い行動をしようとしなくなったり
叱られたことを注目してもらったと捉えて困った行動を増やしたりする。

*できるだけ困った行動は見て見ぬふりをして否定的な注目をしない。
良い行動を待ってほめる（肯定的な注目を与える）

→ワーク2 注目のパワーを上手に使おう

良い行動を引き出す声のかけ方・ほめ方

適切な指示の仕方→「CCQ」安心感を与える接し方

Calm（穏やかに）、**Close**（近づいて）、**Quiet**（静かなトーンで）

Ex.走り回っている子に「穏やかに」「近づいて」「静かなトーンで」

「座りましょう」と声をかける。

すぐにやめなくても、繰り返し同じトーンで「座りましょう」「座ったら先生とお話するよ」と端的に伝える。

“あなたはどんなほめられ方が嬉しいですか？”